

轉じて新唐書の記する所を見れば、前に引きたる「可汗收所餘、往依黑車子、詔弘順清朝窮蹙」の續きに

弘順厚啗黑車子以利、募殺烏介、初從可汗亡者、既不能軍、往往詣幽州降、留者皆飢寒、痕瘐裁數千、黑車子幸其殘、即殺烏介、其下又奉其弟遏捻特勒爲可汗

と記せり、此の如く新書は舊書と同じく回鶻の部衆の往往幽州に來降するものありしことは記せども、之を以て或る年月に配せず、烏介の死に就きても遏捻の立ちしに就きても、同様に年月を記さざるが、只其の後に舊書と同じく

遏捻可汗哀殘部五千、仰食於奚大酋碩舍朗、大中初、仲武討奚破之、回鶻寢耗滅

と記し、此等の事實が共に大中の初以前に在りたることを示せり、此の如く烏介可汗の死と遏捻可汗の立ちし年とに就きては、史の記する所極めて不備にして、止む無くんば之を會昌四年五月以後、大中元年初以前に於る二年餘の間に置かざる可らず、獨り通鑑は會昌六年七月の條下に、主として舊唐書の記事を探りて

回鶻烏介可汗之衆、稍稍降散及凍餒死、所餘不及二千人、國相逸隱賧殺烏介於金山、立其弟特勒遏捻爲可汗と記せり、然れども通鑑は此の記事に就きては、何等の考異と依據とを註示せず、從て余輩の知れる史料の上に立ちては、此の年月に對して、其の可否を定むる能はず。

烏介可汗の死に就きては舊唐書廻紇傳は、宰相逸隱賧の爲に殺されたりとし、新唐書回鶻傳には、回鶻より唐に降りし弘順即ち愛邪勿の爲に、利を以て誘はれたる黑車子の殺す所となれりとし、互に相合せざるが如きも、然も此の後回鶻が糧食を奚に仰ぎしことより考ふれば、黑車子室韋が遂に烏介可汗に背くに至りたるものなるべきは殆んど疑無し、先に引きたる會昌四年九月の李德裕の奏に「又與室韋相失計」と曰へる室韋も、亦此の部を指したる